

三笠市議会政務活動費実績報告書

令和 7 年 3 月 17 日

三笠市議会議長 武田 倅 一 様

会派名

代表者名 武田 倅 一

三笠市議会政務活動費条例第10条の規定により、次のとおり政務活動費に係る支出の実績を報告します。

記

1 交付決定額 50,400 円

2 支出額

| 項 目 | 金 額 | 摘 要 |
|-----------|---------|----------------|
| 調 査 研 究 費 | 円 | |
| 研 修 費 | 66,700円 | 研修負担金、航空券代、宿泊費 |
| 会 議 費 | 円 | |
| 広 報 費 | 円 | |
| 広 聴 費 | 円 | |
| 要請・陳情活動費 | 円 | |
| 資 料 作 成 費 | 円 | |
| 資 料 購 入 費 | 円 | |
| 合 計 | 66,700円 | |

3 添付書類 領収書、領収明細書等の支出証拠書類

- 備考 1 摘要欄には、主な支出の内訳を記載してください。
- 2 会派に所属していない議員にあっては、「代表者名」とあるのは「議員名」と読み替えて記載し、「会派名」の欄の記入は、必要ありません。

政務活動費領収書等貼付用紙

| | | | |
|------|-----|----|----------|
| 支出項目 | 研修費 | 金額 | 66,700 円 |
|------|-----|----|----------|

領収証

2025 年 2 月 20 日

武田 倅一 様

★

¥30,000

但 2/20 14時～ 交通空白と地域公共交通の役割②
2/21 10時～ ライドシェアの基礎と課題
研修会受講代として

上記正に領収いたしました

地方議員研究会

〒530-0001

大阪府大阪市北区梅田1-2-2

大阪駅前第2ビル2階5-6号室

TEL 050-6868-9678



FamilyMart

三笠幸町店
北海道三笠市幸町2 1 番 1

電話 : 01267-4-2256

2024年12月13日 (金) 12:34
印 2-0296 責No. 019

受領書

お客様情報 :
受付番号 202602
氏名 たけだ ていいち様

サービス提供企業名称 :
楽天グループ株式会社
受領日時 :
2024年12月13日 (金) 12:34
お問い合わせ先 :
電話番号 050-3155-3331
受付時間 09:00~18:00
メールアドレス jalrakupack@faq.rakuten.co.jp
ホームページ http://travel.rakuten.co.jp/
収納業務 : (株)イーコンテキスト
お問い合わせ用コード :
申込No 08022291241213123241

商品情報 :
お申込商品代金 ¥36,700
合 計 ¥36,700

『地域の足』が無くなる？ 交通空白解消セミナー

講師 **井原 雄人**
いはら ゆうと

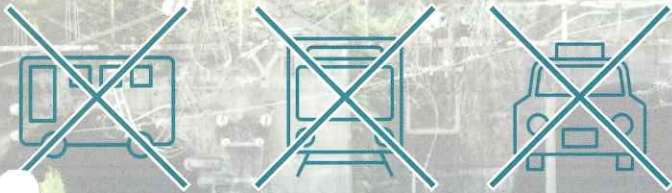
早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授
合同会社ビジュアライト 共同代表
早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科満期退学。
博士(学術・早稲田大学)

【紹介】
大学における研究成果を実際の社会で活用することを目的に、電動バスや燃料電池車両の開発からそれらを活用した地域公共交通の計画策定や地域が主体となったコミュニティ交通導入を実施。



地域からバス、電車、タクシーが無くなる？今地方議員が取り組むべき課題～

東京
開催



2025
1/16(木) 2/20(木) 3/26(水)

交通空白と地域公共交通の役割①
10:00～12:30

- 用語の定義で役所に騙されるな
- 人口減少と高齢化を数値で確認
- 地域公共交通の定義と範囲のおさらい
- 地域公共交通の役割と課題
- 人口減少時代のまちづくりと交通の関係とは

交通空白と地域公共交通の役割②
14:00～16:30

- 地域交通法の改正の歴史と意図
- 競争どころではなくなった時代
- 地域公共交通計画の突っ込みどころ
- 自治体の役割の再確認
- 議員に取り上げてほしい交通課題

2025
1/17(金) 2/21(金) 3/27(木)

ライドシェアの基礎と課題
10:00～12:30

- 政府の交通空白解消本部の議論をおさえる
- 日本版ライドシェアの全国展開？
- 公共ライドシェア、日本版ライドシェア、乗合タクシー
コミュニティバス、デマンド運行の定義と役割
- 地域の足対策と観光の足対策

交通崩壊の解決策と各地の事例
14:00～16:30

- 交通崩壊は既に始まっている
- ローカル鉄道の再構築に関する仕組みと支援例
- 交通税導入の検討と財源策
- 自動運転ロードマップ
- DXGX新しいモビリティサービス

交通空白と地域公共交通の役割およびライドシェアの基礎と課題における所見

2月20、21日の日程で東京都に行き「地域の足」が無くなる？交通空白解消セミナーに参加してきたので報告します。

初日については、交通空白と地域公共交通の役割についてと題して、講師の井原雄人氏より、地域交通法の改正の歴史と意図・競争どころではなくなった時代・地域交通計画の突っ込みどころ・自治体の役割の再確認・議員に取り上げてほしい交通課題というテーマで話が進んだ。

2020年における法改正により、持続可能性のある旅客輸送サービス提供の確保や公共交通マーケティング手法の活用徹底、都道府県と市町村の連携強化、乗り合いバス等の運行補助の連動化等を盛り込んだ地域交通計画作成の努力義務化からはじまり、路線バス、デマンド交通、乗り合いタクシー、自家用有償旅客運送との組み合わせ、需要に応じた車両のダウンサイジングや運営の最適化などの説明を受けた。

バス路線における幹線と支線の分割（ハブ&スポーク型交通ネットワーク）や中心部バス路線の集約化、中心市街地を回遊出来るバスの新設という話の中では今の本市が抱えている問題そのものであったと思い、とても興味深いものであった。

本市においてはこの4月より減便が決定しており、学生の帰宅時におけるバスが出来ない為、タクシーの予約を受けて走らすことを予定しているが、話の中において知らない人と隣同士で乗車させる事で良いのか？等の問題点もあること、また、このような対策だけでは不十分であり、途中で止まる幹線までについては増便をお願いするなど利用者の利便性と路線運航事業者の為に投資を行っていく事も重要であるとされた。

事業者の為の投資という考え方であるが、民間の事業者が主体となり行政が運行サービスに対して赤字補填を行い維持していても、これらについて路線維持については効果がある一方、事業改善インセンティブの課題や利用者減少局面における赤字拡大等、持続可能性については懸念される。

その他、再編事業と同時に行う事で改善を促進できるとして、共通乗車券の発行や乗り継ぎ割引運賃の設定、ICカードや二次元バーコードの導入、ゾーン制運賃や乗り継ぎに関する分かり易い情報提供など参考となるものであった他、バス・タクシー等の交通DX・GXの推進が2050年カーボンニュートラルの実現に向けた社会的要請の高まりにおいて不可欠であるとされているが、事業を推進するにあたり、イニシャルコストは補助対象であるが、ランニングコストの補助は無いとのことであった。

翌日はライドシェアの基礎と課題と題して、公共ライドシェア、日本版ライドシェア、乗り合いタクシー、コミュニティバス、デマンド運行の定義と役割・地域の足対策と観光の足対策について話を聞いた。

「公共の福祉を確保するためにやむを得ない場合」自家用車による有償運送サービスを例外的に許可したことが導入の経緯であり、例外的な許可が常態化していた為、2006年に市

町村やNPO等が自家用車を用いて有償で運送できる制度を創設。

路線バスの撤退による公共交通空白地域の拡大により団体数・車両数ともに増加しているが撤退した路線の代替であるため、利用者数は少なく収支率も低いとされ、民間路線バスの代替である限り収支率が高くなることはないとされる。

また、タクシー事業の現状としてなかなか捕まらないとか配車に時間がかかるとかそもそも高いとか最も便利な公共交通機関のはずなのに「不安」が理由で使われないとされている。

相乗りタクシーでは狭い車内で見知らぬ人との同乗が不安とされている他、マッチングの不成立及び所要時間がかかる事が課題

地域内をデマンドで周回し利用の多い目的地へ運行することについては目的地への到着は定時運行できるためおすすめとされている。

今回の講習会に参加して、結果としては直ぐに良い方法が見つかるという訳ではなく、少し、もやとした感覚であり、答えが出るまでまだ時間も必要と感じた。

当市においては今後においても民間路線バスの減便は続くと思われる。高齢者が多い当市における移動手手段の確保については重要な課題であるが現状できる手段があるとするれば事業者に対する支援しかない。その支援が投資という目的の補助金なのか？

そして、美園町より奥については廃止したいという考えもあると聞いているが、行政サイドから美園までで良いとし、その代わり本数については増便して貰うという考え方は出来るか？

その際は行政が責任を持ち奥に住んでいる市民の移動手手段を確保出来る様にしないと出来ない為予算的には厳しいものがあると思われるが、市民の利便性を考えた場合や事業者にとってもメリットがあるのかもしれない。

又、別の考え方として人材を派遣することも可能なのか？

美幌町では地域おこし協力隊員が町内を運行するバス運転手確保を目的として採用している。その様な先進事例の事も含め公共交通について考えていきたいと思うが、並行してやはりコンパクトなまちづくりは進めていくべきと改めて感じた研修でした。